

## 二酸化炭素濃度の測定

アクラブでは、飛沫感染だけでなく飛沫“核”感染の可能性を視野に床面の清拭(除菌消毒)作業を行っています。同時に、空気環境を測る一般的な指標と云われる二酸化炭素の濃度を適宜測定します。ヒトが呼吸に伴って吐き出す二酸化炭素濃度(CO<sub>2</sub>)は、密集した環境では高くなりますし、換気が十分に行われないと一層高値を示します。二酸化炭素濃度は空間の換気状態を把握する大きな指標と云われています。

学校教室などにおいては、文部科学省が学校環境衛生基準において 1,500ppm(0.15%)と目安を定めています。厚生労働省所管のビル(衛生)管理法における空気環境基準として 1,000ppm(0.1%)という基準があります。また、一般的に空気中の二酸化炭素濃度は 400ppm(0.04%)程度と云われます。

具体的には、アクラブ内で最も“密”が懸念される更衣室を中心に、最も混み合う時間帯(お子様クラスの入替わりのタイミング)を中心に 1,000ppm(0.1%)を基準とした二酸化炭素濃度のモニタリング(と対策)を行っています。モニタリングにおいて、二酸化炭素濃度は概ね 500ppm(0.05%)~800ppm(0.08%)の範囲内で推移しています。ごく稀に1,000ppmを超える場合には、換気扇をフル稼働や窓の開放などを行い速やかに1,000ppm以下に誘導しています。